

編集後記

■編集委員

委員長

藤 田 郁 代

副委員長

立 石 雅 子

石 田 宏 代

今 井 智 子

宇 野 彰 準

勝 木 準 美

熊 倉 勇 子

倉 内 紀 子

小 林 範 子

城 間 将 江

鈴 木 恵 子

関 啓 子

玉 井 ふ み

深 浦 順 一

矢 守 麻 奈

去る6月2日、3日の両日、第8回日本言語聴覚学会(浜松市)が開催されました。天候にも恵まれ、1,900名近い方々の参加がありました。昨年、ポスター、演題を含む発表数が200題を超えたときにはうれしい驚きでしたが、本年はそれさらに上回る発表数でした。ポスター、演題ともに量だけでなく、質においても充実した内容の発表が増えていく過程にあるといえます。学会での発表をまとめて投稿される論文も増加しています。本号がお手元に届く頃はほっとされている時期と思われそうですが、記憶の新しいうちに是非、学会での発表をまとめていただきたいと思います。

言語聴覚研究第4巻2号をお届けします。

原著は2編あります。1編は相貌失認に関するものであり、相貌失認患者の視覚的統合機能について要素呈示法を用いて種々の条件で検討した結果から、視覚要素の統合が相貌失認の発現に関与していると報告されています。もう1編は、失語症の呼称課題における言語性保続に関するもので、健忘失語と伝導失語における言語性保続の出現から、言語性保続の発現に関与する要因として、意味処理と音韻処理について検討しています。いずれの論文もそれぞれ相貌失認、言語性保続などの症状についてその発現機序を明らかにすることを目的とする研究結果の報告です。短報では言語聴覚士とことばの教室教諭による発達障害児に対する家庭、医療、教育の連携の具体的な試みが報告されています。シンポジウム「在宅高齢者への支援」では言語聴覚士と介護支援専門員の連携、訪問リハにおける支援の実態、介護老人保健施設や通所リハ、訪問言語聴覚療法実施などそれぞれの立場からの取り組みがまとめられています。在宅高齢者に対し、どのような視点でどのような具体的な支援が必要かということは、改めて確認するべき重要な点であると思われます。

調査報告は言語発達障害・言語発達遅滞児者の現状と課題と題して、小児言語小委員会が実施した調査結果が報告されています。特別支援教育が本格的に導入される中、言語聴覚士の職務に対する理解を促すなど、言語聴覚士と教員との連携のあり方が問われます。

本年度から「言語聴覚の日」の事業が実施されますが、言語聴覚障害や言語聴覚士の職務内容について広くアピールし、啓発活動を行うことが求められています。

(立石雅子)

言語聴覚研究(第4巻 第2号)2007年7月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-5-8 正和ビル 304

(☎03-5338-3855 FAX 03-5338-3856) <http://www.jaslht.gr.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Showa-Build. #304, 8-5-8 Nishishinjuku Shinjuku-ku, Tokyo, 160-0023, Japan

©2007, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)医薬広告社 ☎03-3814-1971(FAX 03-3814-8915)